

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立津東高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	○ 自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を育成する津東高校 ○ 「向学立志」の精神を大切にし、地域に信頼される津東高校
(2) 育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○ 以下に示す、未来を切り拓くための4つの力を身につけた津東高生 ① 対話力 ② 追究力 ③ 創造力 ④ 発信力 ○ 高い志を抱き、常に学ぼうと努力し続けられる津東高生
ありたい教職員の姿	○ 生徒が自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」を身につけられるよう、生徒に「本気の伴走」ができる教職員 ○ 高い目標を持ち、生徒の学びのロールモデルとして学び続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 国公立大学をはじめとする4年制大学への進学を希望する生徒が多数であり、進路実現のための学力をつけられる授業を望んでいる。 <保護者> 国公立大学をはじめとする4年制大学へ進学させたいと希望する保護者が多数であり、子どもが希望する進路実現のための授業力、進路指導力を求めている。 <地域> 地域に貢献でき、学力に見合う豊かな人格と心を持つ生徒の育成、地域社会を担い、社会貢献する生徒の育成を期待している。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者> 確かな学力と進路保障、豊かな情緒や人格形成をしてほしい。 <地域> 地域の活性化に寄与し、信頼できる学校となしてほしい。 <進路先(大学等)> 明確な目的意識と学力を育んでほしい。	連携する相手への要望・期待 <保護者> 家庭での学習環境整備と学校教育活動に理解や協力をしてほしい。 <地域> 学校教育活動に理解や協力をしてほしい。 <進路先(大学等)> 生徒の進路希望実現のための情報提供をしてほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	○ 社会に出たとき答えが一つでないことにどう対応するか。「自分で考える力」を養うことが重要。外部と協働することで教員にとっても発見があるのではないかな。 ○ 地域を含めた外部の大人との関わりは大切。話を聞くだけでなく、コミュニケーションを取る機会をしっかりと作ってほしい。 ○ 校是「向学立志」を常に先生方が意識していることが大切。 ○ 探究活動をもっと発信した方がよい。	

(4)現状と課題	教育活動	○ 生徒の学校生活は落ち着いており、学習や学校行事、部活動等、熱心に取り組む、満足度も高い。生徒は素直で真面目である一方、学校以外の世界をイメージする機会が少ないため、目標設定に対して満足感を得られないこともある。 ○ 生徒一人ひとりへのきめ細やかで懇切丁寧な指導により、学習への意欲も高まり、大学等への進学者数も安定している。学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を実現し、探究活動「自分らしくプロジェクト」を整備、充実させることで、生徒の学びへの意欲と「自走性」をさらに向上させる必要がある。
	学校運営等	○ 生徒一人ひとりへの指導と比較して、生徒全体の学力向上に資する取組や改善策等に関する組織的取組にやや課題がある。組織的な進路指導、キャリア教育を強化することで、「未来を切り拓く(4つの)力」を今以上に育てる必要がある。 ○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒の学ぶ意欲と志を今以上に育てるため、探究活動をより充実させる必要がある。そのために校内の組織の整備を進めながら、外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力、ファシリテーション能力を向上させる必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○ 日々のすべての教育活動を通して「未来を切り拓く力」を育成し、生徒を3年間成長させ続けるキャリア教育の推進。 ○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒の学ぶ意欲と志を育成するため、外部と連携した探究活動「自分らしくプロジェクト」の充実、発展。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、学力の三要素(「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」)の資質・能力向上に役立つアクティブラーニング型授業の推進。
学校運営等	○ 探究活動「自分らしくプロジェクト」を充実、発展させ、答えが一つでない問いを考える機会を増やす。また、外部との連携を図り、組織としてのコーディネート力を強化する。 ○ 教職員研修を充実させ、授業改善をはじめとした教職員の資質向上に組織的に取り組み、学び続ける教職員集団を目指す。 ○ 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、各学年・分掌で情報共有を密にして、風通しのよい職場づくりを行う。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○ 学習や学校行事、部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒 ○ 自分らしく社会に貢献しようとする夢と志を持つ生徒 ○ 自他を尊重し、思いやりをもち、協力して助け合う気持ちを持った生徒
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程・学習指導の充実 (自分らしくたくましく「未来を切り拓く力」の育成)	○ 探究活動「自分らしくプロジェクト」を2年次まで実施し、「答えが一つでない問い」を考える機会を充実させるとともに、「本気の大人」と出会うことで「自己のあり方生き方」を深く考える機会を増やす。 【活動指標】 ・ 探究活動を、1年生に対して年10回実施、2年生に対して年5回実施 ○ 自分らしくたくましく、ありのままの自分を肯定できる「自己肯定感」を涵養する。 【成果指標】 ・ 探究活動を通して、自己肯定感が高くなった生徒の割合 75%以上 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブラーニング型授業を組織的に推進する。また、学習においてICTを有効活用する。 【成果指標】 ・ 授業アンケートの生徒満足度 80%以上 ○ 生徒の学習時間を把握し、学習習慣の定着・向上を図る。 【成果指標】 ・ 家庭学習時間 平日120分、休日180分	(年度末および適宜記載)	◎ ※ ◎ ※ ※ ※
キャリア教育(進路指導)の充実	○ 生徒に様々な機会・方法で進路情報を提供し、視野を広げるとともに進路意識の向上を図り、志を実現するため高い目標を持って最後まで最大限努力する姿勢を育む。 【活動指標】 ・ 生徒対象 進路ガイダンス、進路講演会の実施 各学年 年3回以上 ・ 保護者対象 進路説明会の実施 各学年 年1回以上 【成果指標】 ・ 共通テスト出願者数 90%以上 ・ 国公立大学出願者数 150名以上 ○ 個人面談を充実させ、進路希望や学習状況を正確に把握し、的確かつ継続的な指導を行う。 【活動指標】 ・ 個人面談 各学年 年3回以上 ○ 生徒が納得のいく、自分らしい進路選択ができる進路指導を行う。 ○ 取り組んできた探究活動を、進路実現に活用する。 ○ 奨学金制度の紹介や手続きを行い、経済的な面から生徒の進路希望の実現を支える。	(年度末および適宜記載)	◎ ※ ※ ※ ※ ※

生徒指導の 充実	○ 生徒の基本的な生活習慣を確立させ、安全で安心して、笑顔で通える学校づくりを行う。 【活動指標】 ・ 全教職員による登校指導 毎日実施 ・ 生徒会役員による挨拶運動 年6回以上 ○ いじめや差別を許さず、一人ひとりの個性の違いを認め、互いに尊重することができる仲間づくりを進めるとともに、望ましい集団や社会の実現に向けて行動しようとする意欲を育む。 【活動指標】 ・ いじめ防止の啓発活動を行う。年2回以上 ・ 各学年、HRでの人権学習や人権に関する学習を行う。年2回以上 ○ 生徒主体の学校行事づくり 生徒会をリーダーとして、生徒主体で学校行事を作るよう努力する。生徒と教職員がともに考え、安全で安心な行事やルールを創り出すよう努力する。	(年度末および適宜記載)	◎ ※ ※ ◎ ※ ※
保健管理の 充実	○ 命を尊び、自らの健康に関心を持ち、主体的に健康な生活を送ることができる生徒を育てる。 ○ 自分たちでより良い環境を作ることの理解の上に、掃除を主体的に取り組めるよう指導する。 ○ スクールカウンセラーをはじめとする外部機関との連携を密にし、生徒の心身の適切なケアを充実させる。 【活動指標】 ・ 教育相談係との連携 年20回以上 ○ ICTを活用した家庭との連携を強化し、情報提供等の活用を促進する。	(年度末および適宜記載)	◎ ※
改善課題			
(年度末に記載)			

(2)学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	○ 組織力の向上のため、学年、分掌、教科の縦横の連携を一層強化する。 【活動指標】 ・ 進路懇談会(学年と進路指導部の連携会議)の実施 1・2年 年5回以上、3年 年10回以上 ○ 学校ビジョン委員会を定期的に開催し、学校のビジョン、生徒の指導方法等を検討し、形にする。 ○ 学力向上推進委員会を定期的に開催し、生徒の学力向上と教員の授業力向上のための方策を議論する。探究活動の充実を含めたキャリア教育を構築する。	(年度末および適宜記載)	◎ ※
保護者・地域住民等との連携 (「社会に開かれた教育課程」の実現)	○ 「社会に開かれた教育課程」を実現し、生徒が「答えが一つでない問い」を考えるため、「本気の大人」の「本気の伴走」ができる体制の構築を進める。外部との連携を強化し、組織としてのコーディネート力を強化する。 【活動指標】 ・ 学校ビジョン委員会または学力向上推進委員会での議論 年10回以上 ○ 学校関係者評価委員会やPTA役員会で、本校教育への意見をいただき、協働に向けて努力する。 【活動指標】 ・ 学校関係者評価委員会 年3回実施	(年度末および適宜記載)	◎ ※ ※
資質向上の取組	○ 外部から講師を招聘し、教職員向け研修会を実施する。 【活動指標】 ・ 外部講師を招聘し、実施した教職員向け研修会 年2回以上 ○ 教員の指導力向上に向け、入試研究会、教科研究会に積極的に参加する。	(年度末および適宜記載)	◎ ※
情報提供による信頼の構築	○ ホームページによる情報提供 【活動指標】 ・ ホームページの更新 月2回以上 ○ 授業公開、学校見学会の実施 【活動指標】 ・ 年間3回以上 ○ 学校説明会の実施 【活動指標】 ・ 中学校等に出向き、学校概要の説明を行う。 年10回以上	(年度末および適宜記載)	※ ※ ※
働きやすい職場環境づくり	○ 行事や取組の精選を進める。 ○ 総勤務時間の縮減に向け、休暇を取得しやすい環境を作る。 【活動指標】 ・ 設定した日の定時に退校できた教職員の割合(定時退校日 月1日) 80%以上 ・ 予定通り休養日を実施できた部活動の割合(週1日) 95%以上 ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合	(年度末および適宜記載)	※ ※

	65%以上 【成果指標】 ・ 時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・ 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・ 1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ・ 1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上		
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	(年度末に記載)
-----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	(年度末に記載)
学校運営について の改善策	(年度末に記載)